公開研究授業

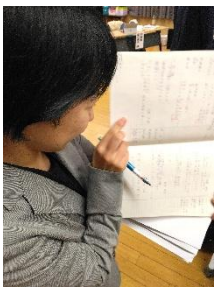
校　長　　武井　正明

この時期、研究発表会が酣（たけなわ）だ。先週 28 日は吉田中で郡市中教研（郡市の中学教員の研修会）社会科の公開授業が行われた。翌 29 日は燕中学校で県中教研国語の公開研究授業があった。教師の本分が授業なのは当然だが、ついつい日々の雑事に紛れて自分の授業をじっくり考えるのを後回しにしがちなところが、嘗ての自分にはあった。

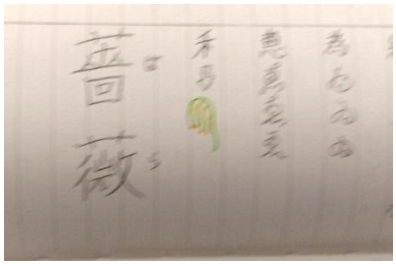
そんな私が 13 年前の県中教研国語「平家物語『扇の的』」栄中学校で公開授業をした。
今回の燕中「走れメロス」の授業者、斎藤先生もこの日に向けて２年かけて授業を練り上げてこられた。その努力や苦労は、今後の自分に倍になって返ってくるだろう。

那須与一が射貫く扇の的は 70m ほどの距離があったという。私の授業の最大の見せ場は、それを実感させようと教室のカーテンを開くと、70m 先の窓外に手作りの扇を持った媼（これが当時新採用だった上杉舞先生、今回燕中公開授業の学級担任と聞いてビックリ‼）が立っている、生徒は「おおっ‼」となる「仕込み」だった。
しかし、いざカーテンが開いて「見よ‼」と指差した先には誰もいなかったのだ。
実は授業が予定通り進まず、かなり押した。待っていてもなかなかカーテンは開かない。自分が何か間違ったのかと舞先生は不安になって、教務室まで確認に走ったのだった。
あの瞬間、首の後ろからヘンな汗がタラ～ッと出た…。

ふとそんなことを思い出しながら公開授業を見ていると、今年燕中に新採用となった皆川美優先生（数学）が隣に来てくれた。彼女は栄中当時の国語教え子。バスケに勉強に、いつも笑顔の絶えない子だった。教員一年目も元気に頑張っているのは顔を見ればわかる。
その彼女が「武井先生、先生の時の国語のノート、持ってきました‼　よく開いて思い出してるんです」「えっ？ホント？嬉しいなあ…（俺、何書いてたか不安だなあ…）」
ノートを開くと丁寧な文字で几帳面にまとめられている。真面目に授業に向かっていた彼女のキラキラした眼差しが浮かぶ。



自分の拙い板書をきれいに書いてくれて、しかもきちんと保管してくれていて…ありがたいやら恥ずかしいやら。



「先生、『薔薇』って字が漢字で書けるヤツはモテるんだ！って言ってましたよね」
「えっ？そんなこと言ってたっけ（言ってました）」「ああ、ありました、ここここ‼」証拠が出てきた。
見ると欄外にしっかりと「薔薇」って書いてある。この後、協議会で挨拶しなければいけないのに、もう赤面の至りだ。

でもめちゃくちゃ嬉しかった。美優さんありがとね、頑張れよ。